

何故？講座の雰囲気大切なのか？

<そもそも、習うということではない講座の大切さ>

◆日本の講座・授業の考えるべき視点

アクティブ・ラーニングについて解説していきたいと思います。

従来の授業や講座では、講師が生徒に対して一方的に講義をする形式が一般的でした。

このような一方的な講義形式とは異なり、受講者の積極的な授業への参加を促す授業や学習法の総称のことをアクティブ・ラーニングと呼びます。

簡単に言うと従来の「受動的な授業・学習」とは真逆の「積極的・能動的な授業・学習」のことです。

この「主体的」「対話的」「深い学び」というのが、アクティブ・ラーニングの重要な3つのポイントになります。

この事柄に必要な物事を排除することが大切です。

まして、表現行為は元来、オープンマインドで行われるものです。

創造性や感受性は緊張を最も嫌います。

練習もトライ&エラーが基本です。

また、朗読という表現行為自体が自らの声を使うもので、その声の状態はささ

いな緊張で変わってしまいます。

◆オープンマインドの必要性

オープンマインドとは自分以外の考え方などを柔軟に取り入れることができる

ため、自分の成長に繋げることもできます。

意見を取り入れられることができるのでスムーズに進むことが多いのです。

さて、オープンマインドの正反対の意味「心を閉ざしていること」「心が閉鎖的」であることです。

多くの人はオープンマインドとは良いものであると認識はしていますが、自分がオープンマインドになるのは難しいと言われてています。

「心を閉ざしていること」「心が閉鎖的」は「否定されるのが嫌い」です。

基本的にオープンマインドな人ではない人は、自分の意見にこだわりがあったり、強い思いがあることが多いです。

さらに根深いのが「いい人だと思われたい」人です。

このような性格の人は多くいますが、この性格のような人はやはり自分に自信がないことが多いです。

さて、朗読表現には「社会のしがらみ」や「過去のトラウマ」、上記の「いい人だと思われたい」、更に「他人を信用しない」「礼儀やマナーを気にしな

い」「他人の領域に入る」「否定されるのが嫌い」自体が1つの登場人物の個性でしかありません。

勿論「オープンマインド」もですが。

ですから「表現者」はその、さらに1段上の人物の性格自体を表現する必要があります。

そのため、その表現をしやすい状態こそが必要になるわけです。

ぜひ、リラックスした状態で行ってください。

まして、講師の役割は皆さんの専属トレーナーです。

